

第18回 有峰俳句の会

令和2年9月12日～13日

1句目は7日目の秘遠の木周辺、西谷川、相山歩道
2句目は2日目の冷夕谷キヤンプ場を詠んだもの

【講師吟】

折れ枝を踏み行く音も秋のもの
雨音も称名めくや森の秋

中坪 達哉
同

【特選】

とんぼ去り水槓の葉のそよぐ怪
秋雨の枝葉を打つは森の衆

菅野 桂子
同

一瞬は止まり岩縫ふ秋の水
霧の湖へ下りる地層の五つ六つ

岡田 康裕
同

水槓の洞の風音秋の蝶
秋の日の山気漂ふ机かな

石黒 順子
同

山葡萄その青き実を食しけり
雲流れ列をなしたる罌の秋

中川 正次
同

踏まれても御山竜胆紫に
如何にとぞ去年の木登りせし小熊

内田 邦夫
同

西谷に集ひて秋の水の音
宝来鳥白き鳥居を霧のぼる

渡辺美和子
同

木漏れ日のカーテンまとう山毛櫨の秋
野営場樺槓の隙秋の湖

吉江 良
同

豹紋蝶翅傷つきて夏の果て
森を行く松葉を背ナにひき蛙

平野 康美
同

アキアカネ猪根の山の空高く

霜鳥 智也

西谷に落葉流るる淋しさよ
冷夕谷喜ぶ秋の雨一日

大井 晋
同